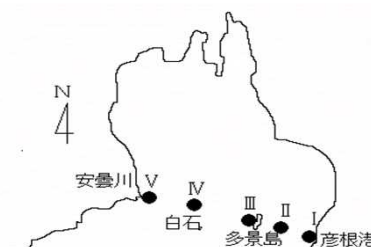


琵琶湖定点定期観測結果速報(令和2年1月)

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご留意下さい。

調査年月日 令和2年1月14日

調査地点 彦根市～高島市安曇川町に至る5地点
(ただし、湖岸水温は彦根市八坂町
滋賀県水産試験場地先における測定値)



調査地点図

調査結果

平均値 … 5地点の平均値

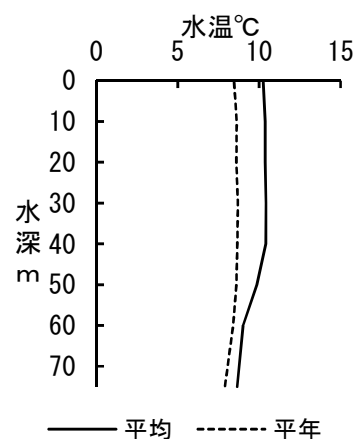
平年値 … 透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1981年～2010年(昭和56年～平成22年)の同時期調査の平均値

DO(溶存酸素濃度)は2010年～2019年(平成22年～平成31年)の同時期調査の平均値

1. 透明度 1月平均値 7.9m 平年値 7.6m

2. 湖水温 (°C)

深度 (m)	1月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0.5	10.3	8.5	+1.8
10	10.4	8.6	+1.8
20	10.4	8.6	+1.8
30	10.4	8.7	+1.7
40	10.4	8.7	+1.7
50	9.9	8.6	+1.3
60	9.0	8.4	+0.6
75	8.7	7.9	+0.8



3. 湖岸水温 (°C)

月(旬)	平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
12月下旬	11.0	9.2	+1.8
1月上旬	9.7	8.0	+1.7
1月中旬	9.5	7.4	+2.1

4. プランクトン沈殿量 (ml/m³)

水層 (m)	1月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0~10	3.1	3.8	-0.7
10~20	1.6	1.4	+0.2
20~40	1.1	1.3	-0.2
40~75	0.2	0.8	-0.6

(プランクトンネットNXX14使用)

5. 表層のプランクトン優占種

○プランクトンネットNXX14による採集(植物:未固定 動物:5%中性ホルマリン固定)

植物プランクトンについては、すべての地点で *Aulacoseira ambigua* (アウラコセイラ:珪藻) が細胞数で最も多く確認されたほか、*Micrasterias hardyi* (ミクラステリアス:緑藻) が量的に多く確認された。

動物プランクトンについては、すべての地点で *Eodiaptomus japonicus* (ヤマトヒゲナガケンミジンコ:カイアシ類) のものと思われるノープリウス期幼生が多く確認されたほか、地点1で *Synchaeta* sp. (ドロワムシ:ワムシ類) が多く確認された。



Aulacoseira ambigua



Micrasterias hardyi



ノープリウス期幼生



Synchaeta sp.

6. DO (溶存酸素濃度 : mg/l)

深度 (m)	1月平均値		平年値		平年差	
	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)
0.5	10.26	(100.7)	10.66	(94.4)	-0.40	(+6.3)
10	10.08	(99.0)	10.49	(93.3)	-0.41	(+5.7)
20	9.90	(97.3)	10.34	(92.1)	-0.44	(+5.2)
30	9.91	(96.2)	10.35	(92.1)	-0.44	(+4.1)
75	2.17	(19.2)	7.73	(67.6)	-5.56	(-48.4)